

■ 経営政策部

I 実り多い産業と人々の集うまちづくり

§ 3 機能的で魅力ある市街地づくり

重○ NTT用地活用検討事業 【笛吹市活性化の要衝地の活用策を検討】 No.3-8

§ 4 人々の交流を盛んにするしくみづくり

○ 水辺活性化事業 【ミズベリング事業】 No.4-11

○ リニア推進事業 【リニア中央新幹線の整備促進】 No.4-12

§ 7 活力ある地域経済づくり

重○ 移住・定住促進事業 【サテライトオフィス整備事業】 No.7-45

IV 将来像実現に向けた取り組み

§ 23 市民と行政の協働によるまちづくり

重○ 政策推進事業 【包括的連携推進事業】 No.23-3

§ 25 健全で安定した行財政基盤づくり

○ 地方創生総合戦略調整事業 【まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進】 No.25-8

○ 総合計画策定事業 【第2次笛吹市総合計画策定】 No.25-9

○ ふるさと納税事業 【ふるさと納税の推進に取り組む事業】 No.25-10

○ 財政管理事務 【地方公会計制度導入による公共団体会計の見える化】 No.25-11

○ 行政改革推進事業 【行財政改革の着実な実現】 No.25-12

事務事業名	3-8 NTT用地活用検討事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	3	機能的で魅力ある市街地づくり				担当名	政策推進担当	課長名	小宮山和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H26年度～H29年度)	
	01	02	01	05	26	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

◇笛吹市の玄関口であるJR石和温泉駅と石和温泉街の中間にある凡そ2.5haの団地のNTT用地を本市のまちづくりに有効的に活用するための事業。
 ◇平成29年5月に土地開発基金で取得し、WSやアンケート調査により活用策を検討した。平成30年度に笛吹みんなの広場の有効活用のための方針をため、市民、議会に説明の上、理解を得て、事業化に向けてと取り組む。
 ◇広場内の不陸地を整地するとともに、除草作業等適正管理を行い、活用策検討期間中、土地を放置しておくのではなく、市民へ無料で貸し出し、有効活用を図った。

◇主な事業費(単位:千円)

報償費185 需用費481 役務費51 委託費4,519 工事請負費3,186 負担金108

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	4,595
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	4,595
人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	10,448
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	0	15,043
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

NTT用地(笛吹みんなの広場)の活用策については、市民WSにおいて検討を行い、いくつかの利用策(方向性)について市民アンケートへつなげ、市民の意識調査ができた。
 次年度は、アンケート結果等をベースに具体的な活用策を市民に示していくこととする。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

ワークショップや市民アンケートを通して市民の考え方を知ることができた。
 これらを踏まえ、プロセスを大切にしながら、広場の活用案を決定していく。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 市民参加によるワークショップでの広場活用策の検討と、市民を対象としたアンケート調査により市民の意向を確認する。

● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった

広場活用策検討ワークショップについては、応募いただいた市民27名に参加いただき、全5回のワークショップにおいて検討を行い、4つの活用の方向性が示された。また、無作為に抽出した2,000名の市民を対象としたアンケート調査を実施し、広場の機能として重要と考えるものが「自然を感じるができる機能」次に、各種イベント機能、続いて「交通の拠点機能」「観光情報の拠点機能」であることと、その機能の利用意向についても、同じ傾向にあることが確認できた。

事務事業名	4-11 水辺活性化事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	政策推進担当	課長名	小宮山和人
法令根拠						個別計画	笛吹市かわまちづくり計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H26年度～H29年度)	
	01	02	01	05	24	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇笛吹川及び近津用水を活用する中で地域のにぎわいを創出し、観光産業の活性化を図る事業。 ◇地域住民・関係団体・学識経験者・地域の事業者で事業推進のための検討会議を開催するとともに、市内の小学生を対象とした水辺で親しむ水辺の安全教室を開催した。	◇主な事業費(単位:千円) 報償費100千円 旅費 100千円 消耗品100千円 食糧費 72千円 委託料1,200千円

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	5,972	6,735	801
	事業費計 (A)	千円	0	5,972	6,735	801	602
人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	1.00	1.50	1.50	1.50
	人件費計 (B)	千円	0	6,860	10,290	10,448	10,448
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	12,832	17,025	11,249	11,050
補助事業等		地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 かわまちづくり計画に基づく事業を進めてきたことにより、国交省における笛吹川護岸整備事業に繋がった。今後は、さらに水に親しむソフト事業を中心にミズベリング事業を推進していく。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 ミズベリング構想の中で計画した事業は、着実に実施に移されている。経営企画課で所管している笛吹川子どもの水辺安全教室については、事業を所管するのに相応しい部署に移管することを検討する。	

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	各種イベントの参加者を増やす。
<input type="radio"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった	
7月7日に実施した水辺で乾杯イベントについては、石和温泉街の観光客やSNS等で呼びかけをした参加者により賑やかに開催することができた。また、8月6日に実施した水辺の楽校についても、好評をいただき、多くの子供や、保護者に参加いただき開催することができた。ただし、開催日が、佐渡市からの交流事業と重なり、春日居地区からの参加者が無く、今後はスケジュールの調整が必要となる。また、オープンカフェの営業については、今年度は、観光商工課の事業として、夏の連夜花火に合わせて、キッチンカーで営業を行い、利用客及び出店者からも好評であった。	

事務事業名	4-12 リニア推進事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	企画調整担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H26年度～H39年度)	
	01	02	01	05	04	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 平成26.10.17国土交通大臣より工事実施計画の認可を受けたリニア中央新幹線について、その建設に向けた沿線地域と事業主体である東海旅客鉄道株式会社、用地取得事務を担う山梨県との連絡・調整を図り、2027年の開業に向け協議等を重ねながら取り組んでいる。	◇主な事業費(単位:千円) 需要費 63 負担金及び交付金 71

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	104	115
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	0	0	104	115	134
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.40	0.40	0.50
	人件費計 (B)	千円	0	2,744	2,744	3,483	3,483
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,744	2,848	3,598	3,617
補助事業等		リニア中央新幹線県委託金					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 原区、三柵区、石橋区、小山区それぞれの沿線住民の意向の確認を行い、地域に寄り添った立場で事業主体であるJR東海、山梨県との調整を行っている。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 地域に積極的に出向き、地域の声を聞き、地域に寄り添った対応ができています。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	地元の要望に対し、各事業者へ連絡・調整を行い事業実施に向けた対応を行う。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	・騒音対策としての防音フード設置について対応 ・沿線への側道の設置について対応 ・各事業者への連絡・調整

事務事業名	7-45 移住・定住促進事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	移住定住担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画	まち・ひと・しごと創生総合戦略 笛吹市人口ビジョン		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H28年度～)	
	01	02	01	05	18	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)							
◇事務事業の概要と実績			◇主な事業費(単位:千円)				
◇地域おこし協力隊や地域おこし企業人などと連携し、笛吹市に関する情報を発信し、笛吹市の知名度を高める。 ◇東京などで積極的に移住相談会など(45回)を開催(開催日数全国1位)し、笛吹市に移住者を呼び込む。 ◇お試し住宅利用 9組17人、延べ160日 ◇空き家バンク物件登録数 11件 ◇鉄道通学支援による人口転出抑制実証事業費補助金 89件、1,569千円 ◇サテライトオフィス促進奨励事業 0件			○報償費 5,931 ○共済費 877 ○報償費 300 ○旅費 550 ○需用費 893 ○役務費 50 ○委託費 84 ○使用料及び賃借料 1,240 ○負担金・補助金 9,372				
(2) 総事業費の推移							
		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	324
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	1,080
		一般財源	千円	0	0	0	10,750
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	12,154	20,345
人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	19,119	27,310
補助事業等		山梨県お試し住宅整備促進支援事業費補助金(H28)、山梨県甲斐適住居移住サポート事業費補助金(H29)、山梨県鉄道通学支援による人口転出抑制実証事業費補助金(H29)、地域活性化センター移住・定住・交流推進事業助成金(H29)					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 平成28年度から取組みを始めている。 都内を中心とした移住相談会など積極的に開催しているが、移住者、定住者の確保には繋がっていない。本市の魅力、受入体制などの情報発信をさらに工夫する必要がある。 また、平成29年度において定住に向けてのいくつかの補助事業を創設したので、平成30年度においては、制度についての周知を行い利用を推し進めて行く。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 様々な取組を積極的に展開していると評価する。 笛吹市の知名度知ってもらわないことには始まらないので、シティプロモーションの中でも取り組む必要がある。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 移住者5件/年(総合戦略における目標値、H31年度までに)であったが、実績は移住者4件/年であった。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
相談者の中で、移住した方がもっている可能性はあるが、担当に連絡してくるケースは少ない。また、移住者の多くは、ネットから情報を収集しているが、移住者向けの情報発信は、外部サイトに依存しているのが現状である。独自の情報発信ができるようになるのが、平成31年1月の予定であり、それまでは移住相談時に笛吹市の認知を上げるように努める。	

事務事業名	23-3 政策推進事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	23	市民と行政の協働によるまちづくり				担当名	企画調整担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H29年度～)	
	01	02	01	05	01	02			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 市と笛吹高校が締結する包括連携協定に基づき、官学が連携した地域産業の振興や地域を担う人材育成への取り組みを進めていく。 ・包括連携推進会議の開催 ・包括連携に関わる事業の協議・決定 ・事業終了後に報告	◇主な事業費(単位:千円) 負担金、補助及び交付金 754

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	754
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	754	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	3,483	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	4,237	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 包括連携推進会議を開催する中で、学校、市双方に有益となる事業を選定し事業実施をした。次年度においても、学校、市双方が持つ機能・技術・知識を活かして地域産業の振興や地域を担う人材育成への取り組みを進めていく。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 初年度としては、円滑な事業実施ができたと思う。今後、連携を深める方策を考える必要性を感じる。また、平成29年第3回定例会で質問のあった高校生模擬議会について、検討する必要がある。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 包括的連携協定に基づき、連携事項の実施を行う。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
・地域の産業振興の担い手となる人材の育成及び支援 ・地域の特産品等を活用した商品開発 ・両者が有する知的・人的資源の交流及び物的資源の相互活用など	

事務事業名	25-8 地方創生総合戦略調整事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	政策推進担当	課長名	小宮山和人
法令根拠	まち・ひと・しごと創生法					個別計画	笛吹市人口ビジョン 笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H27年度～)	
	01	02	01	05	23	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇まち・ひと・しごと創生法に基づき、笛吹市が平成27年度に策定した「人口ビジョン」に掲げた将来人口の目標値を達成するため、将来にわたって活力ある地域社会の維持発展を図るための目標や具体的施策の方向性等をまとめた「笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略(H31までの5年間)」を推進する事業。なお、改訂及び施策の推進にあたっては、笛吹市、市民並びに産官学金労言等で構成する推進組織(笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議)で審議、検討、検証する。	◇主な事業費(単位:千円) 報償費150千円 旅費 150千円 消耗品200千円 食糧費 18千円 印刷製本費300千円

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	10,000	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	809	268
	事業費計 (A)	千円	0	0	10,809	268	240
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	1.66	1.20
	人件費計 (B)	千円	0	0	11,388	8,358	8,358
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	22,197	8,626	8,598
補助事業等		地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 平成31年度までを計画期間とする現「笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に当たっては、KPIの達成状況を的確に把握するとともに、交付金事業活用へ向けた取組みを進めて行く。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 KPIの進捗状況を確認しながら、総合戦略を着実に推進していく。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 総合戦略KPI設定21項目すべてにおいて外部有識者の評価で「評価できる」「観察」の評価を得る ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
達成度 95.2%(平成28年度:平成29年9月検証・評価)21項目中1項目において「評価できない」との評価。	

事務事業名	25-9 総合計画策定事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	政策推進担当	課長名	小宮山和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度のみ	
	01	02	01	05	20	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るため、平成19年度に策定した第1次笛吹市総合計画が平成29年度に終了するにあたり、市の最上位計画として第2次笛吹市総合計画を策定する事業。 ◇年度内に策定済み。	◇主な事業費(単位:千円) 報酬360 需用費(食糧費36、印刷製本費2,600) 委託料6,000

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	8,746
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	8,746	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	17,413	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	26,159	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 平成29年度内に第二次笛吹市総合計画「ハートフルタウン笛吹」～優しさあふれるまち～策定した。 平成30年度～37年度を計画期間とするが、毎年の事業評価を行い次年度の実施計画につなげ進行管理を行っていく。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 第二次笛吹市総合計画は、市民の皆様の御意見を伺いながら、本市の課題解決や将来像実現に向けた内容とすることができたと評価する。 総合計画の実効性を高めるため、実施計画掲載事業を着実に実行していく。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 第二次笛吹市総合計画基本構想・実施計画の策定。 ● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
平成29年度に第一次笛吹市総合計画が終了することに伴い、平成30年3月に第二笛吹市総合計画を策定した。基本構想及び実施計画の2層構造で、総合計画審議会及び市民WS、策定本部会において、審議した。また、2月にパブリックコメントを実施した。	

事務事業名	25-10 ふるさと納税事業					部局名	経営政策部	所属課	経営企画課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	移住定住担当	課長名	小宮山 和人
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H26年度～)	
	01	02	01	05	01	10			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇ふるさと納税を通して、笛吹市に関わってくれる人(関係人口)を増やし、市への関心をたかめ、交流(観光)、移住へとつなげていく。 ◇新商品の開拓(117品目→175品目) ◇寄附金額5千円～10万円の返礼品を開始 ◇ポータルサイトを1箇所追加し3箇所に	◇主な事業費(単位:千円) ○共済費 282 ○賃金 1,887 ○需用費 97,788 ○役務費 5,717 ○委託料 367

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	5	19,549	59,882	68,954	106,041
	事業費計 (A)	千円	5	19,549	59,882	68,954	106,041	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.60	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	664	4,116	6,860	6,965	6,965	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	669	23,665	66,742	75,919	113,006	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 平成29年度においては、対前年度比157%と大幅に納税額が伸びた。今後は、さらに新商品の開拓、効果的な情報発信を行い、 笛吹市の知名度UPを図るとともに納税額の増加を目指していく。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 予定を大幅に上回る実績は、評価する。 今後、業務の効率化を検討してほしい。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 納税額を1億5千万円であったが、実績は1億8千万強となった。	
● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
返礼品の増加だけでなく、納税額に応じた返礼品を設定したことにより、単に納税者・納税額が増えただけではなく、一人当たりの納税額が増加した。	

事務事業名	25-11 財政管理事務					部局名	経営政策部	所属課	財政課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	財政担当	課長名	雨宮 昭夫
法令根拠	地方自治法・地方財政法・笛吹市財務規則					個別計画	笛吹市長期財政推計		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	02	01	05	30	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 市の財政運営管理事務全般 ①予算編成・執行管理 ②決算分析・財務書類作成 ③財政推計策定・公表 ④公会計制度の導入	◇主な事業費(単位:千円) 旅費 23 消耗品費 115 印刷製本費 1,614 委託料 2,152 使用料 26 負担金 2,026

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	1,775	1,763	1,765	5,123	5,956
	事業費計 (A)	千円	1,775	1,763	1,765	5,123	5,956	
	人件費	正規職員延従事人数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
	人件費計 (B)	千円	19,905	20,580	20,580	20,895	20,895	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	21,680	22,343	22,345	26,018	26,851	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】	平成30年度の予算編成、29年度の予算執行管理については、順調な取り組みを行っているが31年度の予算編成に向けて更に検証が必要と考える。 交付税算定・決算状況調査・地方債事務・財政推計等については、順調な取り組みであった。 また、制度改正による新たな公会計整備については、担当職員は研修を重ね、財務書類の作成に取り組み今年度中に公表予定。併せて財政課以外の職員に対して制度について研修を行い普及に努めた。来年度以降も継続する必要がある。
2次評価者【部長・消防長・支所長】	予算執行管理の適正化と効率化に向け財務会計事務を見直したこと、予算編成における財政課の役割を再認識し予算査定精度を上げるための取組をおこなったこと、これらについて高く評価する。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	統一的な基準による公会計制度を導入し、平成30年3月までに財務4表を作成・公表する。
	● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	公会計制度については、平成29年度より導入ということで、27年度より研修や専門書を購入するなど準備を行ってきた。本年度は、導入年度ということもあり、新たに導入に向けたコンサルティング業務を専門家に委託し、公会計の制度について、市長を含む市幹部職員、リーダー、主幹以上の研修を行った。 財務書類の作成については、専門家のアドバイスをいただきながら作成し、3月に市議会へ報告、また市HPで公表予定。

事務事業名	25-12 行政改革推進事業					部局名	経営政策部	所属課	財政課
施策名	25	健全で安定した行財政基盤づくり				担当名	行政改革担当	課長名	雨宮 昭夫
法令根拠	行政改革推進法					個別計画	第3次行財政改革大綱、第3次行財政改革実施計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	02	01	05	09	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>ア(概要) 健全な行財政運営を確立するため、行財政改革大綱の策定と進捗管理を行う。また、行政改革推進本部会議、行政改革推進委員会を開催し、計画策定や行財政改革の重要事項に関することを審議する。</p> <p>イ(実績) 第3次行財政改革実施計画H28年度検証結果報告書を作成し、11月に公開した。また、H29年度中間報告を10月にとりまとめた。 1月にパブリックコメントを実施し、3月に第4次行財政改革大綱を策定した。行政改革推進本部会議、行政改革推進委員会をそれぞれ4回開催した。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>報酬 212 旅費 50 需用費 11 負担金、補助及び交付金 35</p>
---	--

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	230	173	154	277
	事業費計 (A)	千円	230	173	154	277	308
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	6,635	6,860	6,860	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,865	7,033	7,014	7,242	7,273
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

第4次笛吹市行財政改革大綱の策定に向け、行政改革推進本部会議及び行政改革推進委員会において、協議を行った。本部会議での協議及び委員会からの、提言、要望等を踏まえ素案を策定、それを基に、更に審議を重ね委員会から答申をいただき大綱を策定することができた。今後、新たな大綱を基に、行財政改革を進めていく。
第3次笛吹市行財政改革大綱の進捗状況管理については、目標に対しての評価指標が、非常に分かりにくいと、行政改革推進委員会からご意見をいただいております。行財政改革に関する評価の方法について、根本的に見直す必要があると考える。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

現行の評価は、「評価のための評価」になっている印象を受ける。少なくとも、行財政改革に資するものであるか疑問である。
次年度は、行財政改革の目的、即ち事務事業の見直しを通して、行財政のリソースを生み出していけるような評価を実施したい。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 第4次行財政改革大綱策定、第3次行財政改革大綱の進捗管理

● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった

これまで3次にわたり、改革を進めてきたが、行財政が身の丈に合っている状況とは言えないことから、これまでの考え方を換え、ゼロベースでの改革を実行するための基本方針となる第4次行財政改革大綱を3月に策定した。大綱案については、行政改革推進本部会議及び行政改革推進委員会において、審議した。また、12月に市議会へ説明し意見を求めるとともに、1月から2月にかけて、パブリックコメントを実施した。第3次行財政改革大綱の進捗管理については、10月に中間報告をまとめた。最終報告書については、決算数値が必要なため、H30年度の6月に作成する予定となっている。